

報 会 うでまくり

一般社団法人
福島県女性経営者プラザ

順応性をもって活動しましょう！

一般社団法人 福島県女性経営者プラザ

会長 安 斎 恵美子



東京への五輪招致が決定したのは2013年。日本中が歓喜したあの瞬間から東京五輪が閉幕するまで、あつという間の出来事でした。この『うでまくり』が出るころには「東京2020パラリンピック」も閉会していることでしょう。なんとも、時の流れは早いものです。

さて、感動をたくさん受け取った17日間の東京五輪ですが、開催まで様々

なトラブルに見舞われ、開催期間中も、コンプライアンス問題など毎日のように落胆する情報がメディアから流れてきました。

そんな状況下でも、選手たちの活躍とオリンピック精神は輝かしいものでした。直前まで開催を不安視される中でそれでも準備を進めてきた大変さを見ると、金27個含む58個のメダル獲得は本当に素晴らしい結果だと感じます。「日本中が一丸となつて！」とは言えませんでした。招致当初に掲げた日本の「おもてなし」の心を世界に示したオリンピックだったと私は思っています。

「オリンピック開催のために、これだけ多くのことをやってきた都市はあ

◆ FJPの目的 ◆

- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

りません。順応性をもって取り組んだ東京に対して金メダルを差し上げた「これは、次回パリ五輪の開催責任者であるエスタンゲ会長からの賛辞です。これこそ今大会の開催に関わった全ての人へ届けたい言葉だと私は思いました。そして、閉会時に国立競技場に表示された「ARIGATO」の文字に感慨深いものがありました。

五輪開催は、改めて今の状況を考えてみるきっかけにもなりました。現在は第五波まっただ中。耐える時間、試練の時だからこそ、私たち会員は知恵を出し合い、心を一つにしてこの状況を乗り越えていきたいと思っています。

FJPの事業も後半に入りました。順応性を発揮し、経営者として腕を磨くための事業が今後の計画にも盛り込まれています。コロナ禍を前提とした内容となっておりますので、ぜひご参加ください！

柔軟な発想、勇気、情熱、行動力と

● うでまくりとは

古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがある。天気の良い朝にバラバラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない…という意味。FJP、女の腕まくりの真価はこれから！

多様性を持って、愛情いっぱい、笑顔いっぱい活動してくださる会員の皆様にFJPは支えられています。

改めまして、心から感謝いたします。「ARIGATO」！



2021.7.13 定例会において

4月定例会—会員卓話

2021年4月13日(火)
場所・郡山ビューホテルアネックス

先輩経営者に学ぶ(その②)

「女性経営者として」

ゲスト (有)東保温板金工業所

代表取締役 長沢美起子さん

【講演要旨】

先代の社長が就任3年目で突然亡くなり、経理総務担当だった私が社長を引き継いだ。当時の建設業界は、「女に何ができるんだ」という男社会。現場で働く女性の割合も僅か0・3%ほど。「女の下で仕事をするのか」とも言われ、社員にも苦勞をかけた。でも、「ここで引き下がるわけにはいかない」と、現場に行つて掃除をしたり、技術的なことを学んだり、重い設備も担いだし、なんでもやつた。そういう私の態度を見て、現場の人たちがだんだん社長として認めてくれるようになったと思う。三田さんも「女が仕事をするのは大変なことだ」と言っていたが、まだまだ男社会の風潮がいまだに残っている。

当面は事務員をおかず、経理は会計事務所をお願いし、電話も転送にして、

現場に出ていた。子どもを自宅に残して夜間工事に出たこともあった。自分がやらなければだれも助けてくれない。4年間は赤字が続き、銀行からも衰退産業だと言われ、厳しい時代だった。手形が多く現金がない状況。何度も税務署に納税を分割にしてもらうようにお願いした。

やっぱり会社を引き継がなければよかったかな、と思ったこともあった。もっと楽な道があったのではないかと感じた。でも、うちの会社を本当に必要としてくれているお客様のために、社長の遺志を継いで会社を継続させることが私の使命だと考えた。

大口取引先の民事再生法適用やリーマンショック、東日本大震災など、大変な時期は何度もあった。ある時、社員から「社長、すごい顔してますよ」と指摘された。苦しいときに苦しい顔をし

ては社員が不安に思う。その時からどんな時でも明るくいようと心に決めた。従業員に日ごろから伝えていることは、人とのつながりが一番大切だということ。それと、1円でもお金が発生したらそれは仕事であり、適当な仕事はしないこと。社会貢献としては、日本赤十字、交通遺児基金や子ども基金などに毎年寄付している。

一番大変だったのは、引き継いだ直後。会社の中がギスギスして社員が半分に割れた。一束になれないもどかしさが一番悔しい思い出。FJPの先輩たちに精神的な面ですぐく支えてもらった。入会して20年目に入る。異業種から学ぶことも多く、見る視点によって多様な意見があり、気づきを得られる場。皆さんそれぞれにいろいろと大変なことはあると思うが、「何とかなる」という精神で頑張つていきましょう。



【講師紹介】

1957年 田村郡小野町生まれ。
福島大学経済短期大学卒業後、法律事務所・不動産会社勤務。
平成5年5月 東保温板金工業所(当時個人企業)入社、
平成5年12月 経理並び総務担当事務
有限会社 東保温板金工業所となり、経理
並び総務担当
平成8年7月 営業・経理並び総務
*二級建築施工管理技士 資格取得／二級管工施工管理
技士 資格取得
平成12年 代表取締役就任 現在に至る



花束の贈呈



コロナ対策も万全です



話をする長沢会員

第26回 定時総会

2020年度第26回定時総会は、2021年5月11日、郡山ビューホテルアネックスにおいて、コロナウィルス感染防止対策を講じて無事開催することが出来ました。来賓は、福島県中小企業団体中央会・金成孝典様をお迎え致しました。

第一部講演会では、陰山建設（株）代表取締役陰山正弘氏の記念講演を開催し、第2部定時総会では、安斎会長を議長とし、第1号議案2020年度事業報告並びに収支決算報告（監査報告）、第2号議案2021年度事業計画並びに収支予算案、第3号議案事務局移転承認の件が提案され、全ての議案が全員一致により承認されました。三田公美子前相談役の死去により、FJPの事務局は、二本松市若宮2-163-1に変更となり、登記を行った。



議長を務める安斎会長

●第2部 記念講演会

感謝が会社を成長させる

～女性の活躍できる
職場環境の整備～

陰山建設株式会社
代表取締役 陰山正弘氏



▼講演要旨▼

社会貢献活動として37年間にわたり続けている献血活動は、祖父

である初代の時代に、従業員の家族が輸血が必要になり、献血を募ったことがルーツ。二代目、三代目と続けてこれて、今では献血車8台を集めて実施する日本最大級の献血活動になった。これも協力企業の皆様のお力添えがあつてこそ。CSRに共通認識があり、日本で一番協力会社と仲の良い建設会社だと自負している。

東日本大震災の際は、全国からたくさんの方の支援をいただいた。その恩送りとして、協力企業とともに全国で災害が起きたら一番最初に被災地に駆けつけようとした。西日本豪雨の際は、原発事故後の除染技術を活かして土砂災害の土砂の回収撤去を行った。ボランティア

活動が結果的に仕事にも結び付いている。

★社長就任直後の危機

私が31歳の時、大型案件のマンション建設を受注し、そのタイミングで父親から会社を引き継いだ。しかし、社長就任から3ヶ月後にそのマンションのディベロッパーが倒産。もう終わりだと絶望した。しかし、この時にいろんな人に支えられた。父親の仲間が1億円を貸してくれたら、「君の若さにかけるから」と、メイン銀行の頭取が融資もしてくれた。おかげで、自社物件としてマンションを建設販売できた。自分にとって大きな節目となった事業だった。

★建設業界のDX推進役として

建設業界は、2025年には職人が3分の2になってしまうと推定されている。建設会社の90%が中小企業であり、人材不足対応のためのIT化は難しい。その課題を解決するために、IOTで顧客満足度を向上させるための独自のアプリを開発した。すべての建設現場が携帯電話で見える化されている。この取り組みが総務省の中小企業クラウド実践大賞で全国準グランプリを受賞した。おかげで、コマツなどの大企業と一緒に関創コミュニティを作って活動している。

★一生働ける会社を目指す

弊社には、勤続50年の半世紀も務めてくれている従業員が3人いる。定年制は設けていない。働けるまで会社にいる。長年支えて来てくれた従業員のほかで今の会社がある。4年に1度、感謝の集いを開催し、社長から社員やその家族、協力会社に感謝を伝えている。社員に万が一の事故などが起きた時、残された遺族である子どもたちを22歳になるまで学費を支援する陰山建設株式会社育英会を設立した。30代で亡くなった社員の子どもたちが、高校生や中学生になつて、「将来は陰山建設に就職したい」と言ってくれたことは、涙を流すほど嬉しかった。これからも、男女問わず、年齢問わず、国籍問わず、活躍できる会社を目指していきたい。



熱心に陰山社長の話聞く会員

6月定例会 ― 〈講演会〉

6月4日(金) 茶寮おりおり

日本経済・福島県経済の動向

〜女性経営者に期待すること〜

講師 日本銀行福島支店
支店長 植田 リサ氏

日本銀行福島支店長 植田リサ氏
をお迎えし講演をいただきました。

初めに日本・福島の経済動向について

コロナウイルス感染症の影響により輸出の減少・インバウンド需要の蒸発・個人消費の減少が同時に起こり企業・家計の所得形成に悪影響を及ぼしている現状のお話がありました。具体的には実質GDP・名目GDP・経済活動指数雇用・所得等の説明があり、今後は企業の活力を向上させるために大きな変化を踏まえた迅速・柔軟な変革の必要性・これまでのビジネスモデル・経営形



講師プロフィール

H 6 年 3 月	早稲田大学商学部卒業
4 月	日本銀行入行
19 年 7 月	決済機構局企画役
22 年 7 月	発券局企画役
24 年 7 月	政策委員会企画役
26 年 6 月	総務人事局企画役
27 年 8 月	金融機構局企画役
28 年 4 月	金融機構局審査企画課長 兼 金融機構局審査役
29 年 6 月	金融機構局審査企画課長 兼 金融機構局上席審査役
30 年 5 月	金融機構局参事役
6 月	政策委員会企画部渉外課長
R 2 年 7 月	福島支店長

態の抜本的な見直しと対応・with コロナ・after コロナの視点を持つて取組む必要があるとの事です。

次に女性経営者については各国のジェンダーギャップ・就業者・管理的職業従事者の女性の割合等の指標をいただき、日本の女性の社会進出はまだ未だです。ちなみに日本での女性経営者の占める割合が最も多い都道府県は沖縄県だそうです。

そこで、女性経営者に期待する事として次の3点が挙げられました。

①女性の視点・目線（強みを活かす）

②誰もが働きやすい職場の提供、さまざまな職業観への理解、非正規から正規へ

③女性の更なる社会進出のために

後進の育成、女性経営幹部の育成、（男性）経営者との交流、経済団体等での活動、市政・県政への参画



コロナ禍での経済動向について...



花が大好きな植田支店長にお花をプレゼント

●秋の夜長を楽しく

9月に限らず日本には美しい暦や季節の呼び方があります。

9月は葉長月・夜長月とも言われ、夕暮が早くあつという間に暗くなってしまうためにそう呼ばれていたようです。私達がなじみの深いのは中秋の名月が一番かと思えます。

秋の七草を活けて秋の夜長を楽しんではいかがでしょうか。ちなみに、秋の七草は萩・ススキ・撫子・女郎花・葛・藤袴・桔梗です。何故これが秋の七草なのか由来はわかりませんが、このコロナ禍の中で少しゆったりとした時を過ごすのも良いのではないのでしょうか。

月の兎に願いを託して...

みきこ



7月定例会

7月13日(火) 郡山ビューホテルアネックス

先輩経営者に学ぶ

明日へ！全力疾走

ゲスト 株式会社 郷

代表取締役 佐藤光代さん

この年になっても学ぶことは多い。

一日一日を精いっぱい駆け抜け、明日に向かって前向きに生きてきた。コロナウイルスに立ち向かうことができない今の状態がもどかしい。

でも世の中がどうであろうと、立ち止まってはられない。経営者は先頭に立つて攻め続けなければいけない。昭和、平成、令和の時代を生かさせていたきてきて、皆さんと同じように若い時代もあった。女性の会計士に憧れて東京の会計事務所に勤めた。しかし父親の病気が原因で、いわき市に戻ってきた。

宅地造成の仕事をはじめ、最盛期に



FJPの先輩でもある佐藤光代さん

はいわき市郷ヶ丘の団地造成や郡山市の柴宮団地、久留米の宅地分譲を行った。当時は何もないうちが、街をつくることで、人と人の出会いや関係が生まれる。住んでいる人全員がその街の営業マンになってくれた。

その間にオイルショックや不動産バブル崩壊などの難局もあった。世の中の流れ、どこから風が吹いてくるのか、十分にアンテナを張り、アンテナで何を受け取るかが、事業に大きな影響を及ぼす。それが私たち経営者の感性だと思う。ピンチはチャンスというが、ピンチを受け止めることができる、それをチャンスに変えられる。

宅地造成の際には、そこに循環が生まれるように私なりの努力をしてきた。地域のコミュニケーションを大切にすること。盆踊りの練習会やおまつりを企画開催するなど、小さな積み重ねが循環の街づくりの礎となった。

お客様とのつながりが私の元気の源。お客様のおかげで株式会社郷がある。ヒト、モノ、カネとよく言うが、一番大切にすべきものは「人」。いつ、どこで、どういう人との関係が生きてくるかは分からないから、一期一会を大切にしてい

しい。

バブル崩壊後、不動産持っていた宝にならない「負動産」と言われる時代にある。しかし、そういう中において道を切り拓いて、チャンスを見つけていくのが経営者の役目。自分で判断ができる経営者になってほしい。今、自分の地域はどうなっているかよく見て判断するこ



会場は、6階の和食「舟津」

とが重要。

リーダーの役割は、決断すること、決断したことに責任を持つこと。男性も女性も関係ない。苦しいこともたくさんあるが、経営者はそれを乗り越えていかなければいけない。精神的な力も自分に植え付け、楽しく、明日も頑張っていってほしい。「できなかったことはつかり考えるな、できたことの数を数えよう。」とよく三田さんが私に言ってくれた。この言葉を皆さんに送りたい。

■講師プロフィール

公益社団法人福島県宅地建物取引業協会・公益社団法人全国宅地建物取引業保証協会 福島本部 副会長・副本部長・総務財務委員会委員長・女性クラブ部会長
特定非営利活動法人いわき市住まい情報センター理事長（空家バンクいわき）

新入会員募集！

未来に向かって
一緒に
夢を語りませんか

トライ＆チャレンジ精神の
豊かな仲間たちが
あなたをお待ちしています



福島県女性経営者プラザ

〒964-0906 二本松市若宮2-163-1

TEL 080-2671-8966

http://fjp-net.com/

今から20年以上前に私の母が足を痛めてしまい、だんだんと踊るのが大変になってきたのを見て、体に良い事をしているのに何故だろう...と書いていました。それで、自分なりに本を読んだり、テレビの健康に係のある番組の中から自分なりにいろいろ考えながら、少しずつ踊り方を変えるようにしてみました。

「スクワット」のやり方をきちんとしないで膝を痛めたという話なども聞いて、踊り方に何か問題があるのかと思いながら、いろいろな形で踊ってみました。

母の時代のお稽古は、後にそって踊ることが良いとされていましたが、私は今の時代に合わせ、「耳・肩・腰・くるぶし」が一直線になるように踊ってみました。最初はなかなかうまくいきませんでした。次第に体の使い方を本

●リレーエッセー●

私は、日本舞踊の師範をしています

佐賀 裕子
(総務委員会)

やテレビ等から見聞きしたように踊ってみました。年数はかかりましたが、今は体を傷めないように踊れるようになってきました。特に今は、関節を動かして筋肉を動かす踊り方をしています。

お陰様で、母が足などを痛めて立ち座りが大変になってきた年齢を超えても、こうして動ける事をしあわせに思います。今は、コロナでマスクの生活が続いていますので、呼吸をしっかりとするようにしています。

腹式呼吸と胸式呼吸を交互にして、インナーマッスルを鍛えています。これからも、時代に合わせて体を鍛えていきたいと思っています。みなさんも参考にして頂けたらと思います。

投稿募集



会員のエッセーを募集しています。

締切り：2022年2月末日
字数：700字(本文)
送り先：FJP 交流・広報委員会



撫でるとご利益があるらしい...

その①御祈祷
今まで、あまり神頼みせず生きてきた。初詣や観光地での参拝など、百円分の神頼みはしてきたが、今回は意を決して御祈祷を。

丑年生まれの還暦祝いなのだから、牛関連の神社に行くべしと、伊佐須美神社を選ぶ。撫でるとご利益がある牛さんがいると聞いていたからだ。

伊佐須美神社は近年、火災で社殿を焼失。簡易な社殿での御祈祷でありましたが、それゆえ間近からの神主様のお祓いと、ドラの音は大迫力でした。

コラム

事業委員会
杉原 明美

5月に無事還暦を迎えました。還暦での初体験をご紹介します。

その②人生初めてのペット

娘がツナと名付けられた猫をもらってきた。60年で初めての動物との生活。可愛いくて可愛いくて仕方がない。ミャアミャア言いながら必死に逃れようとするツナを押さえつけて、子育て経験を生かした赤ちゃんだつこにたまに成功していい気になっている。

すっかり我が家になったツナ様は、縦横無尽に動き回り、気が付くと高いところで、時に慈悲深く、時に冷やかに人間様を見下ろしています。



ツナです。宜しくニャ...

●ふくしまの自慢 12

平 栗 洋 子

安積歴史博物館

― 開拓者精神宿る旧福島県尋常中学校

安積歴史博物館は、郡山駅より西へ4キロメートルほどの開成5丁目の福島県立安積高校の門をくぐると正面に建っています。明治22年創建の高等教育の県下最初の旧福島県尋常中学校です。明治時代の鹿鳴旋風の優れた洋風建造物として国の重要文化財に指定されています。郡山は、明治時代以前は水利に恵まれない荒涼とした原野でしたが明治政府による国営事業の第一号とし



国の重要文化財に指定されている旧本館正面玄関



教室には木の机と椅子が



羽目板張の校舎



シャンデリアのある講堂



階段を登ると講堂がある

て「安積開拓事業」が開始され、多くの人々の協力の元、郡山の礎は築かれました。荒野を切り拓いた先人達の熱い精神（開拓者精神）が受け継がれたこの地に旧本館があります。

さて、ここからは実際に中に入ってお話しをしたいと思います。八角の柱が八角形に配置され腰屋根をつけた玄関ポーチを入ると、ひんやりした空気に包まれ、まさにタイムスリップしたの様な気分になりました。そこから腰羽目板張りの廊下をすすむと、高山樗牛や久米正雄、朝河貫二等の著名人や何千、

何万もの個性を育んだ学び舎、教室があります。木の机と椅子が並んでいます。机には彫られた落書きも見えます。今も昔も変わらない学生達の思いに共感を覚え笑みがこぼれました。この教室の壁に巾木を廻らして漆喰塗りが施されていました。大きな窓からの柔らかな光を感じながら階段を昇ると講堂があります。講堂の天井にはローソク用のシャンデリアが二つ取り付けられています。舞踏会や音楽会が出来そうな華やかさを感じました。

現在はここで在校生が集会や講和会などで使用しているそうです。私も父兄として何度か足を運ぶ機会があります。

した。

また、旧本館は、NHKのドラマ「坂の上の雲」「エール」、フジテレビの「坊ちゃん」などのロケ地としても使われたそうです。

一巡しての印象は、外観の華やかさに比べて内部は品格のある重厚な趣きと明治の洒落感ある細工に現代の合理的な学舎とは大きな違いを感じました。明治の文豪にも見られる個性や粋さでしょうか。

この大切な文化遺産、歴史を象徴するこの場所が建造物としての価値、学び舎としての価値、安積開拓者精神の原点としての価値を過去・現在・未来へとつないでいく大切なものだと思います。郡山のみならず、福島県人の守るべき自慢の一つであると思います。

コロナ感染予防にご協力を！



各委員会——活動報告

●総務委員会

総務委員長 古川 節子

今年度もコロナの感染拡大が収まらず、昨年より深刻な状況が続いていますが、その中でも、皆様の協力によって総会、定例会を対面で開催できたことはよかったです。今年度新設された「デジタル準備委員会」により、FJPも世の中に遅れることなく学び・実践していけるのではないかと期待しています。その意識もあり、総務委員会ではできるだけ理事会・定例会の案内、連絡事項をメールなどで実施し、問題点や改善策を洗い出しているところです。委員会内でもGD等の無料アプリを使いデータの共有なども試験的に行っています。

前期総務委員会は8月5日、新しくなった織井さんのお店（FRAGILE〈フレンジール〉二本松）で開催しました。変わるFJPを意識し、新しい取り組みにも協力して実践していくこと、事務諸費清算の流れや定着についても話し合いました。新しいことには積極的に取り組み、そこから見えた問題点

を洗い出していくことが大切だと感じています。これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



事業委員会(2021.8.5 二本松「FRAGILE」)

●事業委員会

事業委員長 会田 和子

コロナが厳しさを増す中、女性経営者の大先輩佐藤光代さんを講師に7月定例会を無事開催。沈みがちな事業委員会に元気が蘇りました。そこで8月5日、澤上副会長の燦に集合。大先輩の提案「いわき特別移動例会」、「女性経営者育成」「会員増加」を柱に意見交換をしました。新しい会員が増えたことを背景に、「まずは身近

にいる会員のみなさんを知り、大事にすることが輪を広げる」「仲間との絆づくりが会合への参加意欲を高める」

どの委員もFJPのこれからの期待大です。時代を生き抜くノウハウや情報を沢山もっていることもわかりましたので、私個人的には「会員に聞く」を充実させたいなあと思いました。



事業委員会 (2021.8.5 郡山「燦」)

●交流・広報委員会

交流・広報委員長 長沢 美起子

今年度は、7月に「うでまくり」の原稿依頼等の打合せを行い、発行部数の検討・活用方法等の検討を致しました。

8月の委員会は古川総務委員長をお迎えして「うでまくり」の編集などの勉強会も兼ねて開催予定でしたが、コロナウイルス感染症の罹患率が高い水準でしたので、改めて行うように延期をさせていただきました。

交流・広報委員会としては「うでまくり」を活用していただいて、会員の拡大につなげていただきたいと考えております。

皆様のご協力をお願い致します。



編集後記

すっかり初秋を迎え、このコロナ禍の中じっくり季節を楽しむことなく、過ぎて行ってしまったようです。東京オリ・パラと自民党総裁選と世は慌ただしいですが、私達の生活はコロナ禍で毎日ようやく過ごしている感があります。

国の指導力が求められている時かと思えます。次期総理は私達の身近にある存在となつてほしいものです。若い世代に対して「明けない夜はない」と胸を張って言える世であってほしいと願っております。

寄稿して頂いた会員の皆様に感謝いたします。
(長沢美起子)